荷

金史良

青空文庫

棒の両端に叺を吊して、ぶらんぶらん担ぎ廻る例の「皆喰爺」が、寮の裏で見える度に、私は尹書房を思い出すのだ。

尹さんは少しはましのチゲ（担具）労働者である。然し土壇場にまで突き込まれて、喜劇ならぬかわった意慾の生活を弄する点では、全く同じいだろう。

早朝起き上ると、尹さんは先ず自分の版図を検分し出すのだ。崩れかかった彼の小屋が、しょんぼり立つ低湿地の一帯は、書房の心の中では、彼の所領と定められている。地面に境界の線を引き廻ったりして、夢中になる。

終日街を出歩いて、三十銭も稼げぬことだろう。今日はどうでした？　と夕頃つい出会って、問いかけでもしたら、彼は直様癖の手を頭にやって、

「なあ学生さん」と嘯くのだ。「偉え不景気でがしてのう」

彼は裸一貫である。何時かの述懐に依ると、二男一女が一時に熱病でやられているが、信用はおけない。唯彼の女房が産褥で悶死したことだけは、どうにか事実だと云われている。

今年の夏なども帰国すると、尹書房はどうして嗅ぎ付けたものか、最早その翌日には、庭先に件のおどおどした体を現わしたことである。彼は喰ってかかる様に、突拍子に叫んだのだ。

「日本てとこさ、豊作ちゅうですな！」それから、歴とした小作農でもある様に、ぶつくさ愚痴をこぼした。「チエーギ堪らねえだ、籾一斤五銭でやがらあ」

又或日の如きは、高潮した興奮の中で、すっかりせき込むのだ。

……羽二重の見捨品を日本内地の工場から直接取り寄せて、大儲けをする者が居る。日本へ渡ったら、何とか取り計って呉れぬか。佐賀の居所は何処だ。一筆走らして貰い度い、等と。然し次の瞬間、尹さんは先の仰山な用件はけろりと忘れたものか、

「学生さん」と急に話題を変え、えへらえへらひょうきんに笑い出すのである。それはべらぼうな吐言の予告でもある。そして、彼はむきになって、村長と駐在所長とどちらが位の高いものだろうかと頭をひねった。私はつい苦笑すると、彼は益々顔面に深い皺を刻んで、それ見ろ至極難題で困ったろうとでも云うみたいに、胡麻塩の蓬髪をくさくさ掻き立てたのだ。

——秋の学期が始まり、佐賀に再び帰ってから間もないことである。郷里の母の手紙は、苛性曹達を嚥んだ彼の死を告げてきた。あの莫大な夢想と陶酔と自尊心の荷が、とうとう始末に逐えなくなったのかと、私は異様なショックに打たれたのだ。然し今日、寮裏でひょっこり例の「皆喰爺」を見つけると、この爺はあの偉大な口と胃腸の名誉にかけても、最早自殺等は出来まいと、不図私は思ったことである。爺はその固く喰いしばった口の中で、どんな言葉を反芻しているのだろう、諸君も知っているのだ。炊事場の掃溜場から、叺を吊した例の棒を肩に掛けて腰を上げると、籾、羽二重、村長を呟くかわりに、爺は斯う怒った様に喚くのである。

「ちゅっ、おいが荷物はこぎゃんとばかしこ」

青空文庫情報

底本：「光の中に　金史良作品集」講談社文芸文庫、講談社
　　1999（平成11）年4月10日第1刷発行
底本の親本：「金史良全集　1［#「1」はローマ数字、1-13-21］」河出書房新社
　　1973（昭和48）年2月28日
※初出：「佐賀高等学校文科乙類卒業記念誌」
　　1936（昭和11）年2月
入力：大野晋
校正：大野裕
2001年1月1日公開
2005年12月16日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

荷

金史良

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/